

ねん がつこのか
2022年1月9日

しゅ せんれい しゅじつ
主の洗礼の主日

きくち いさおだい しきょう
菊地 功大司教 メッセージ

しゅ せんれい きねん ひ しよ ほしゅう とき す たみ
主の洗礼を記念するこの日、イザヤ書はバビロンで捕囚の時を過ごすイスラエルの民に
たい くん おとず かみ かいほう めぐ かた ほしゅう くん たの
対して、苦難ののちに訪れる神による解放の恵みを語ります。捕囚の苦難を耐え忍ぶ
こと、^{かのじよ}「彼女の咎は償われ」、^{つみ}「罪のすべてに倍する報いを主の御手から受けた」とイ
ザヤは^{しる}記します。

パウロはテトスへの^{てがみ}手紙で、わたしたちの^{すく}救いは、「キリストが^{わたし}私たちのためにご^{じしん}自身
をささげられた」ことを^{つう}通じて「あらゆる^{ふほう}不法から^{あがな}贖いだし」たことによって^{あた}与えられ
た^{めぐ}恵みであることを^{きょうちよう}強調します。そして「この^{すく}救いは、^{せいれい}聖霊によって^{あたら}新しく^う生まれさ
せ、^{あら}新たに^{つく}造りかえる^{あら}洗いを^{とお}通して^{じつげん}実現した」と^{しる}記します。わたしたちの^{すく}救いは、^{わたし}私
たちが^{ただ}正しさによって^ぎ義と^{みと}認められて^{あた}与えられたものではなく、^{てっていき}徹底的に^{かみ}神からの^{めぐ}恵みで
あり、^{かみ}神ご^{じしん}自身の^{くん}苦難を^{つう}通じて^{あた}与えられ、それが^{みず}水と^{せいれい}聖霊による^{せんれい}洗礼によって^{じつげん}実現した
ことを^{めいかく}明確にします。

ルカ福音は、^{ふくいん}公生活を^{こうせいかつ}始めるにあたって、イエスが^{せんれいしゃ}洗礼者ヨハネから^{せんれい}洗礼を^う受けたこと
を^{しる}記しています。ヨハネ^{じしん}自身が^{めいかく}明確にするように、その^{みず}水による^{せんれい}洗礼は^{つみ}罪の^{ゆる}赦しの^{しょうちよう}象徴
であって、^{しゅ}主ご^{じしん}自身が^{あた}与える^{せいれい}聖霊と^ひ火による^{せんれい}洗礼とは^{ひかく}比較にならないものであります。
しかし^{しゅ}主ご^{じしん}自身は、^{にんげん}人間となられ^{わたし}私たちとともに^{あゆ}歩まれる^{いし}意思を^{めいかく}明確にし、またそれが
わたしたちの^{つみ}罪を^せ背負って^{あゆ}歩まれることを^{めいかく}明確にするために、^{こうせいかつ}公生活の^{はじ}始めにヨハネの
^{せんれい}洗礼を^う受けられました。

その^{こうい}行為を^{かんぜん}完全に^{しゆくふく}祝福するように^{せいれい}聖霊が^{ほと}鳩のように^お降り、「あなたはわたしの^{あい}愛する^こ子、
わたしの^{こころ}心に^{かな}適うもの」との^{おんちち}御父の^{こえ}声が^{ひび}響き^{わた}渡ります。イエスの^{じんせい}人生が^{おんちち}御父の^{みむね}御旨に^{かんぜん}完全
に^{したが}従うものであり、^{どうじ}同時に^{わたし}私たちとともに^{あゆ}歩まれ、^{みずか}自らの^{いし}意思ではなくすべてを^{ささ}捧げ^つ尽
くす^{ぎせい}犠牲の^い生き方を^{かた}通じて、^{つう}人類の^{じんるい}救いという^{すく}恵みを^{めぐ}与えられる^{あた}道を^{みち}歩まれることを^{あゆ}明確
にする^{できごと}出来事です。

主しゅの洗礼せんれいは、主しゅイエスの人間にんげんとしての歩あゆみを方向ほうこう付ける、重要じゅうような意味いみを持もっています。
その苦くるしみを通つうじてわたしたちを贖あがなってくださった主しゅは、同じ道おなじみちを歩あゆむようと、わた
したちを招まねかれます。他者たしやのために捧ささげる苦くるしみを通つうじてもたらされる、救すくいの恵めぐみに与あずか
るようにとの招まねきです。

私わたしたち「信しんじるものは洗礼せんれいによってキリストの死しにあずかり、キリストとともに葬ほうむら
れ、復活ふっかつします」(カテキズム1227)。キリストにしたが従したがうわたしたちは、この人生じんせいをどの
よういに生きていくのでしょうか。

わたしたちが今いまともに歩あゆんでいるシノドスの道みちは、まさしく主しゅがともに歩あゆんでくださる
道程みちのりです。この道程みちのりの中なかで主しゅは、わたしたちが「不信心ふしんじんと現世的な欲望げんせきてきよくぼうを捨すてて、この世
で、思慮しりよぶか深く、正ただしく、信心しんじんぶか深く生活せいかつするようまねに」招まねいておられます。

準備文書じゅんびぶんしょにいくつかある分わかち合あいの手引てびきとしての設問せつもんの第五番目だいごばんめには、こう問といか
けが記しるされています。

「わたしたちは皆みな、宣教せんきょうする弟子でしであるので、洗礼せんれいを受けた一人うひとりはいかにして宣教せんきょう
の主人公しゅじんこうとして呼よばれるでしょうか。社会しゃかいでの奉仕ほうしに取り組むメンバーを、共同体きょうどうたいはど
のようささに支さえているでしょうか。彼らかれが宣教せんきょうの論理ろんりでこれらの責任せきにんを生いき抜ぬくのを、皆
さんはどのようしえんに支さ援えんしていますか。宣教せんきょうにかんれんする選えらびについての識別しきべつはどのよう
になされていますか、また誰だれがそれさんかに参加さんかしていますか。」

洗礼せんれいを受けたわたしたちは、自分自身じぶんじしんのために生きていているのではなく、キリストになら倣なら
て、キリストのためにい生きています。今一度いまいちど、それぞれの生き方いを振り返かたり、ともに歩あゆ
まれる主しゅにしたが従したがう決意けついを新あらたにいたしましょう。